

2009年4月13日

各 位

オリックス・ファシリティーズ株式会社
営業企画部

京都大学で ESCO サービスを開始 省エネに関する包括的サービスで地球環境保全に貢献

大京グループの不動産・建物管理会社であるオリックス・ファシリティーズ株式会社を中心とするグループ（テクノ工営㈱、オリックス・エンジニアリング㈱）は、国立大学法人京都大学が2008年8月に技術提案方式により公募した「平成20年度 京都大学吉田地区 ESCO 事業」の最優秀提案者に選定され、同年12月より省エネルギー改修に関する設計、施工、施工管理を行ってまいりましたが、2009年3月31日には計画された省エネルギー施設改修がすべて完了し、同年4月1日より ESCO サービスを開始いたしましたのでお知らせいたします。

ESCO 事業・・・Energy Service Company の略で、工場やビルの省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、それまでの環境を損なうことなく省エネルギーを実現し、さらにはその結果得られる省エネルギー効果を保証する事業。

ESCO 契約期間は2009年4月からの2年間で、当グループが ESCO 設備と関連する既存施設の維持管理、省エネルギー量、CO2 削減量の計測・検証を行いながら、省エネルギー削減効果の保証をします。省エネ施設改修の契約方式は、ギャランティード・セイビングス契約（※1）で、京都大学が92,973千円を負担しています。

対象施設は、京都大学吉田キャンパスの北部団地ならびに中央団地内の11施設（建物）で、延べ床面積は、56,908㎡です。

省エネルギー施設改修の主なメニューは、電気ヒートポンプ（EHP）式エアコン100台（室外機17台）、エアコン室外機に自動散水装置、太陽光発電システム（太陽光パネル100枚—20kW）、照明器具のHfインバーター切替え（32w 蛍光灯換算—約3,900本）、高効率スポットライトへの更新（166台）、蛍光灯・白熱灯のLED切替え（40w 蛍光灯タイプ約200本、ダウンライト約260個）、廊下・階段等共用部に照明用人体センサー、LED 光源の高輝度誘導灯、トイレ・洗面器の水量調整、その他にも省エネファンVベルトへ切替え、空調機導入外気量の適正化、高効率チラーへの更新、空調方式の更新（パッケージエアコンの方式）、トップランナートランスへの更新、水銀灯をセラミックメタルハライドランプに更新など、ふんだんな省エネアイテムを盛り込んでおります。

京都大学では、2007年4月に「京都大学省エネルギー推進方針」を定め、「京都議定書の目標の達成を目指す省エネルギー法改正への対応、大学の環境憲章の遵守、世界に誇る大学としての社会的責任を果たすために、エネルギーと温室効果ガスの削減に向けた全学的なアクションを起こす」ことを目指しております。

今回の ESCO 事業では、省エネルギー量 6,115,624MJ(メガジュール)/年、CO2 排出量削減 303t-CO2/年を目的に取り組み、エネルギー削減による利益 約7,900千円/年を創出する見込みです。

オリックス・ファシリティーズグループは、今回省エネ改修工事から発生した廃機材、廃器具をサーマルリサイクル（※2）・マテリアルリサイクル（※3）に利用する一方、廃棄物運搬に伴う輸送車からのCO2をカーボンオフセット（※4）（オリックス環境㈱に委託）するなど、環境アクションを実践しています。

今後も双方協力して、環境問題に一層取り組んでまいります。

以 上

（ご参考）

1 ギャランティード・セイビングス契約

ESCO 事業の契約には事業の内容、計測・検証方法の合意、顧客に対する保証など、通常の請負工事にはみられない項目が含まれる。また、顧客が融資を受けるか、ESCO が融資を受け、顧客に投資するかによっても、契約形態が大きく異なる。このような契約をパフォーマンス契約とよんでいるが、契約は大きくギャランティード・セイビングス契約とシェアード・セイビングス契約に分かれる。

ギャランティード・セイビングス契約では、実際の金融負担は顧客が負うが、ESCO は顧客に対し省エネルギー改修による節減額を保証し、利益補償を行うことから、現実的には顧客に経済的な負担を強いることはない。この場合顧客は一定金額を ESCO のサービスに対して支払い、当初の計画以上の省エネルギー効果が得られた場合の利益は原則的に顧客が受け取る。（ESCO 推進協議会 HP ESCO 用語解説より）

2 サーマルリサイクル

廃棄物を単に焼却処理するだけではなく、焼却の際に発生するエネルギーを回収・利用すること。廃棄物の焼却熱は、回収した廃棄物を選別した後の残渣処理にも使われる。（EIC ネット 環境用語集より）

3 マテリアルリサイクル

ごみを原料として再利用すること。日本語訳（直訳・意識）で「材料リサイクル」「材料再生」「再資源化」「再生利用」などといわれることもある。具体的には、使用済み製品や生産工程から出るごみなどを回収し、利用しやすいように処理して、新しい製品の材料もしくは原料として使うことを指す。（EIC ネット 環境用語集より）

4 カーボンオフセット

自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量については、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等を購入すること等により、その排出量の全部又は一部を埋め合わせすることをいう。（オリックス環境㈱）

この件に関するお問い合わせ先

オリックス・ファシリティーズ株式会社 営業企画部(担当：片田・兵道)

TEL:03-3435-3520 (直通) URL: <http://www.orix-f.co.jp>